



研究開発を新規ビジネスに結びつけるベンチャー企業： ～社内ベンチャー立上げにおける経営と意思決定～

講師：木下 泰三

元 (株) 日立製作所 IoTクラウド事業部 事業主管

同 ワイヤレスインフォベンチャーカンパニー CEO

現 一般社団法人情報処理学会 事務局長

2026年6月18日、信州大学工学部において、技術を元に新市場を開拓するマーケティングと、社長としての会社経営についても実経験をもとに具体的に解説した。

1. 講義全体の趣旨・目的

本講義「経営者から学ぶ技術経営」は、社会が必要とするイノベーションを担い、21世紀の諸問題を解決できる理工系人材の育成を目的としています。専門知識にとどまらず、全体を俯瞰する視点やプロジェクトマネジメント能力を養うため、豊富なマネジメント経験を持つ「技術経営士の会」の講師陣が登壇し、経営の真髄や技術動向について実践的な知見を伝えることを趣旨としています。

2. 当日の出席状況

- ・日時：2026年6月18日（木）
- ・場所：信州大学工学部
- ・対象：工学部修士1年生を中心とした学生
- ・出席者数：登録者40名中、当日の出席者は約30名

3. 私の講義の概要

「研究開発を新規ビジネスに結びつけるベンチャー企業：～社内ベンチャー立上げにおける経営と意思決定～」と題し、90分間（講義80分、質疑応答10分）の講義を行いました。講義では、日立製作所の中央研究所に入社した私が、研究者として博士号も目指し技術開発に注力した25年と、そして今や日立の情報事業を支えるLumadaというIoT・AIプラットフォーム事業にまで成長した経緯を、苦労話も含めて生々しく解説しました。技術を元に新市場を開拓するマーケティングと、社長としての会社経営についても実経験をもとに具体的に解説しました。また研究者としての心構えとベンチャー経営者としての心意気の違いについてもアドバイスしました。

4. 学生たちの反応

教室では、学生たちが熱心に聴講してくれ、その場の質問も2件ほど（横串組織論について、競合対策戦略について）頂きました。事後の2つの課題レポートにおいても、私の講義の主旨を理解してくれた事が確認できました。受講生約30人の課題レポートを読ませていただきいろんな示唆を頂いたので、今後の講義に反映していこうと思います。

5. 謝辞および結び

本講義の担当教員である千田有一教授をはじめ、講義の実現にご尽力いただいた関係者の皆様に心より謝意を表します。私にとって信州大学では初めての講義登壇となりましたが、熱意をもって話を聞いてくれる学生たちと意見を交わすことができ、大変に有意義な時間となりました。